

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和4年10月】

■調査概要（データ対象期間：令和4年10月1日～10月31日）

○調査期間：令和4年10月31日～令和4年11月24日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業20企業、製造業19企業、卸売業11企業、小売業21企業

飲食業13企業、サービス業40企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計124企業>

○調査項目：10月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅の拡大

1. 業況判断

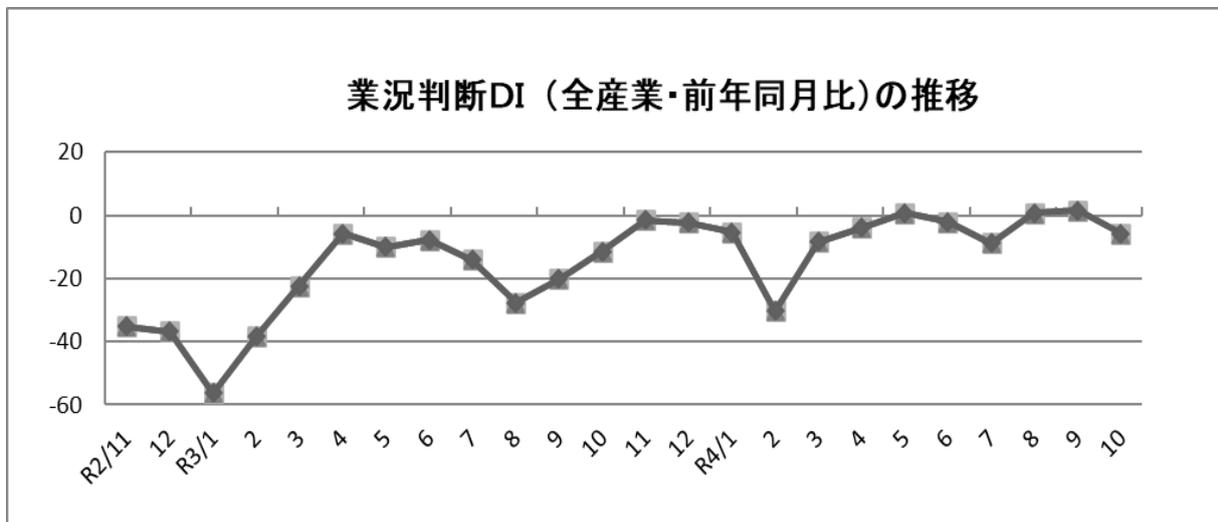
- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(1.5)よりプラス幅が7.2ポイント縮小し、▲5.7となった。業種別では、飲食業はプラス幅が拡大し、卸売業はプラスからマイナスに転じた。サービス業は0からプラスになり、小売業は0のまま横ばいであった。製造業は0からマイナスに転じ、建設業はマイナス幅が縮小した。
- 全産業合計の水準DIは、前月(▲17.2)よりマイナス幅が1.3ポイント拡大し、▲18.5となった。業種別では、卸売業がプラスからマイナスに転じ、飲食業、サービス業はマイナス幅が縮小した。製造業はマイナスのまま横ばいで、建設業、小売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	16.9 (20.3)	60.5 (60.9)	22.6 (18.8)	▲ 5.7 (1.5)	12.1 (15.6)	57.3 (51.6)	30.6 (32.8)	▲ 18.5 (▲ 17.2)
建設業	0.0 (5.3)	85.0 (73.6)	15.0 (21.1)	▲ 15.0 (▲ 15.8)	0.0 (5.3)	85.0 (78.9)	15.0 (15.8)	▲ 15.0 (▲ 10.5)
製造業	5.3 (21.1)	63.1 (57.8)	31.6 (21.1)	▲ 26.3 (0.0)	10.5 (21.1)	52.7 (31.5)	36.8 (47.4)	▲ 26.3 (▲ 26.3)
卸売業	9.1 (25.0)	63.6 (75.0)	27.3 (0.0)	▲ 18.2 (25.0)	27.3 (33.3)	27.2 (41.7)	45.5 (25.0)	▲ 18.2 (8.3)
小売業	23.8 (25.0)	52.4 (50.0)	23.8 (25.0)	0.0 (0.0)	14.3 (29.2)	52.4 (33.3)	33.3 (37.5)	▲ 19.0 (▲ 8.3)
飲食業	30.8 (40.0)	53.8 (33.3)	15.4 (26.7)	15.4 (13.3)	15.4 (13.3)	61.5 (53.4)	23.1 (33.3)	▲ 7.7 (▲ 20.0)
サービス業	25.0 (15.4)	52.5 (69.2)	22.5 (15.4)	2.5 (0.0)	12.5 (5.1)	55.0 (61.6)	32.5 (33.3)	▲ 20.0 (▲ 28.2)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



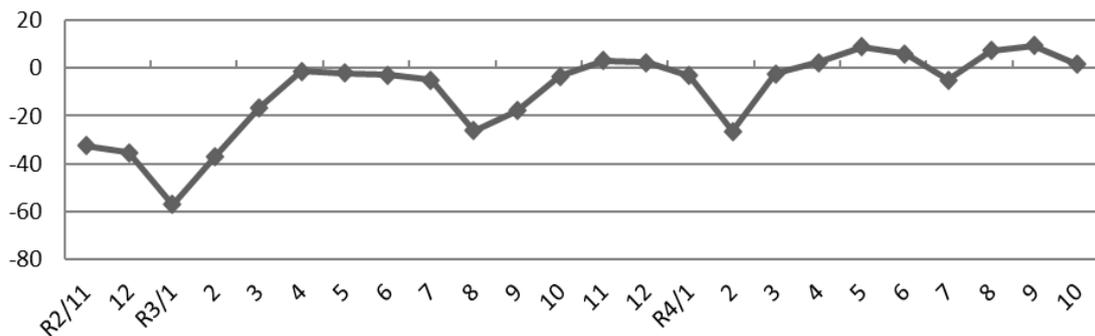
2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月(9.4)よりプラス幅が7.8ポイント縮小して、1.6となった。業種別に見ると、飲食業、小売業はプラス幅が拡大し、卸売業はプラス幅が縮小した。製造業はプラスから0になり、サービス業は0のまま横ばいであった。建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
全 体	▲ 3.5	3.0	2.3	▲ 3.1	▲ 26.5	▲ 2.3	2.4	9.0	6.0	▲ 4.9	7.2	9.4	1.6	↘
建 設 業	▲ 4.5	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1	▲ 21.0	▲ 36.8	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 20.0	↘
製 造 業	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0	5.5	▲ 12.5	5.9	15.8	0.0	↘
卸 売 業	7.7	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1	25.0	0.0	33.4	58.3	9.1	↘
小 売 業	20.9	13.0	9.1	4.4	▲ 28.0	4.2	4.5	26.1	▲ 3.9	0.0	▲ 9.5	4.2	4.8	↗
飲 食 業	▲ 17.6	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2	11.8	5.9	33.4	20.0	30.8	↗
サービス業	▲ 20.5	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0	▲ 12.0	9.8	5.0	19.0	17.0	4.8	7.5	0.0	0.0	→

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



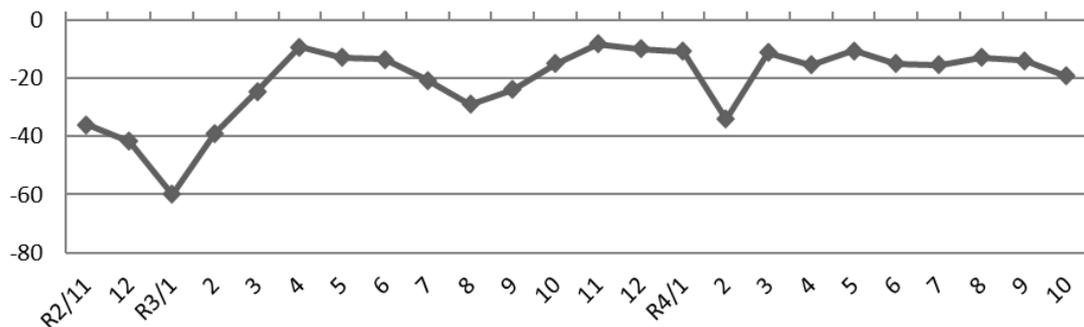
3. 営業利益DI（前年同月比）

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲14.1)よりマイナス幅が5.3ポイント拡大して、▲19.4となった。業種別に見ると、卸売業はプラスからマイナスに転じた。建設業、サービス業、飲食業はマイナス幅が縮小し、製造業、小売業はマイナス幅が拡大した。

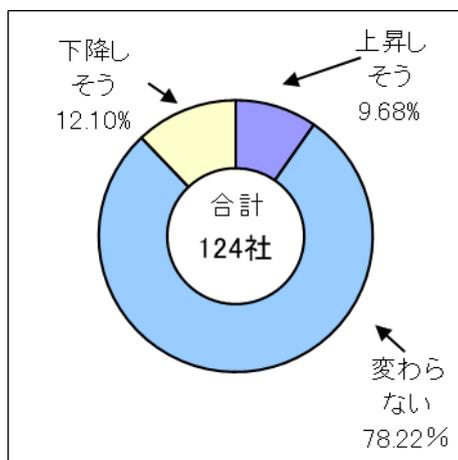
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
全 体	▲ 15.0	▲ 8.3	▲ 10.0	▲ 10.8	▲ 34.1	▲ 11.3	▲ 15.4	▲ 10.6	▲ 15.0	▲ 15.4	▲ 12.9	▲ 14.1	▲ 19.4	↘
建 設 業	▲ 22.7	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1	▲ 36.8	▲ 31.6	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 15.0	↗
製 造 業	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0	▲ 27.8	▲ 25.0	▲ 23.6	▲ 36.8	▲ 36.9	↘
卸 売 業	7.7	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4	▲ 8.3	▲ 9.1	25.0	25.0	▲ 18.2	↘
小 売 業	4.2	4.3	0.0	0.0	▲ 16.0	4.1	0.0	8.7	▲ 23.1	▲ 27.8	▲ 42.9	▲ 4.2	▲ 28.6	↘
飲 食 業	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 13.3	▲ 33.3	▲ 30.8	↗
サービス業	▲ 20.4	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7	▲ 31.0	2.4	▲ 12.5	7.1	2.4	▲ 2.4	0.0	▲ 7.7	▲ 5.0	↗

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



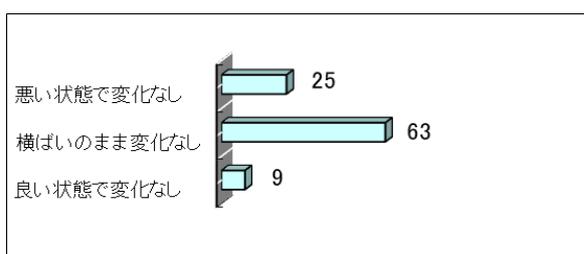
◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○令和4年11月～令和5年1月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ0.30ポイント上昇し9.68%、「下降しそう」が4.29ポイント上昇し12.10%となった。業種別の見通しDIは建設業(0.0)、製造業(0.0)、卸売業(▲18.2)、小売業(▲4.7)、飲食業(▲7.7)、サービス業(2.5)であった。

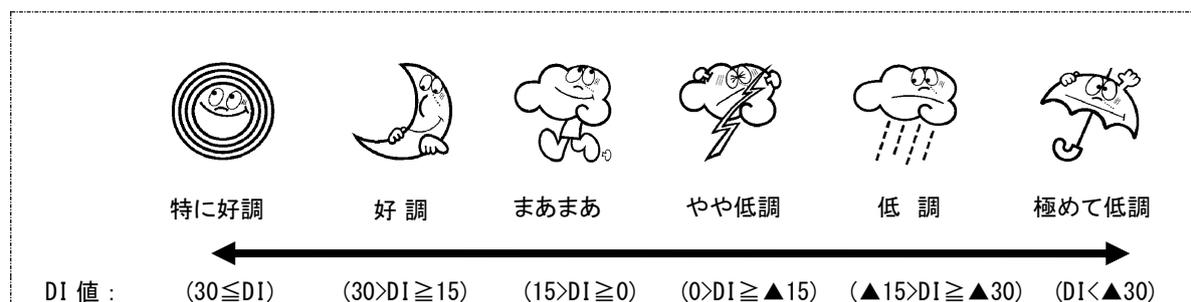
➡「上昇しそう」では「上昇しなければならないと考えているため」(建設業)「部品入荷状況が多少改善されたため」「例年下期に回復しているため」(製造業)「クリスマスシーズンに予約注文があると予想されているため」「年末商戦と物産展出店が控えているため」「旅行客が増えそうなため」(小売業)「客足が伸びそうなため」(飲食業)「月清算が見込めるプロジェクトの引合があるため」「職業訓練応募者数が比較的高水準を維持しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「全国旅行支援が始まるため」といった声が多数寄せられた。

➡「下降しそう」では「手持ちの見込みが少ないため」(建設業)「材料費の値上げと価格転嫁の難しさで利益率がマイナスになっているため」「値上げによる数量減と原材料のコスト上昇の影響があるため」(製造業)「価格上昇に伴い買い控えが予想されるため」「購買に対して慎重な姿勢が見られるため」(卸売業)「この先プラスになる要因が見当たらないため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「閑散期であるため」「新型コロナウイルス感染症の影響があるため」といった声が多数寄せられた。

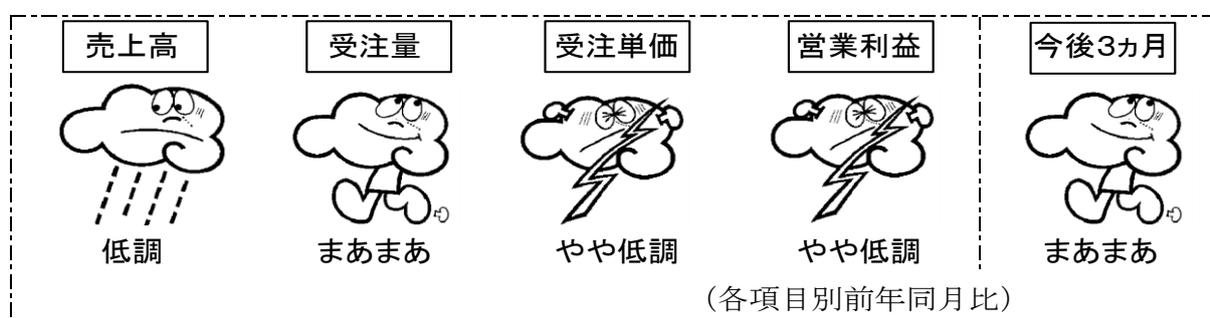


業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

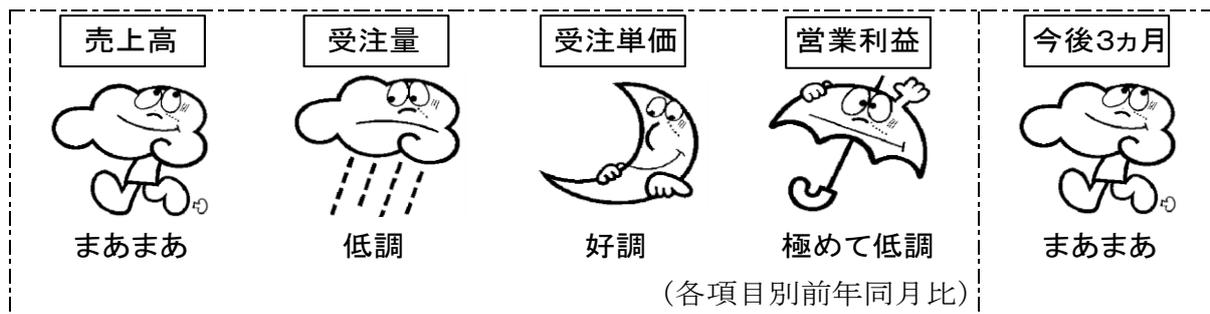
	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 4.5	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1	▲ 21.0	▲ 36.8	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 20.0
受注量	0.0	▲ 5.3	▲ 38.9	▲ 31.5	▲ 42.9	▲ 30.0	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 15.8	▲ 31.6	▲ 5.3	▲ 15.8	10.0
受注単価	▲ 9.1	5.3	▲ 11.1	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 10.0	10.5	▲ 4.7	5.3	▲ 10.5	▲ 5.3	▲ 5.2	▲ 15.0
営業利益	▲ 22.7	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1	▲ 36.8	▲ 31.6	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 15.0
見通し	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 5.0	0.0	▲ 4.7	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

電気工事

・今に始まったことではないが、建設業に限らず他業種も同様に若手の人材不足をどこでも耳にする。なんとか若手の人材確保をし、企業の安定化を図りたいところである。

2. 製造業



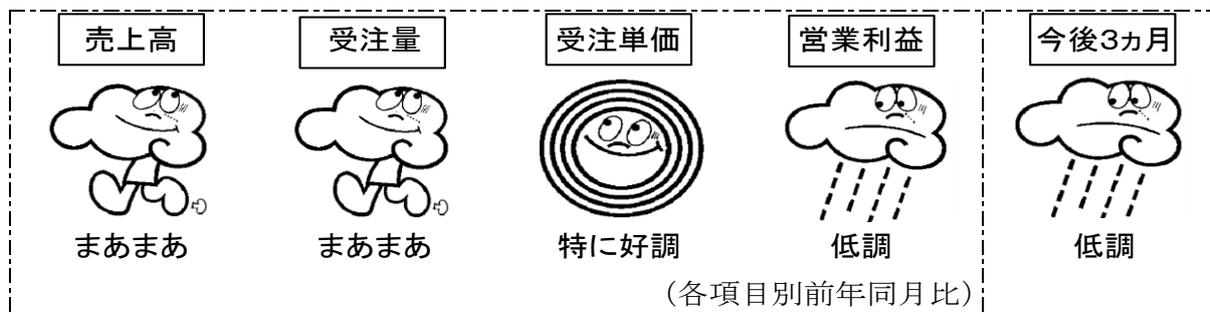
【項目別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0	5.5	▲ 12.5	5.9	15.8	0.0
受注量	10.0	▲ 5.2	▲ 10.0	5.2	▲ 47.4	5.5	▲ 22.2	10.0	11.1	▲ 25.0	▲ 11.7	15.8	▲ 15.8
受注単価	5.0	5.3	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 5.5	11.1	5.0	16.7	6.2	11.7	15.8	21.1
営業利益	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0	▲ 27.8	▲ 25.0	▲ 23.6	▲ 36.8	▲ 36.9
見通し	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 15.8	5.3	▲ 22.2	▲ 16.7	▲ 5.0	5.5	▲ 12.5	5.8	0.0	0.0

<経営者の目・見方・etc>

- | | |
|----------|--|
| 精密機器組立 | <ul style="list-style-type: none"> ・電力料金の値上げや材料調達コストの上昇が経営を圧迫している。 ・未だに半導体や鉄が不足している。 ・ここ数カ月は地元行政の業務委託印刷物が激減しており、業界全体を見ても相当深刻な状況といえる。 ・原材料や燃料の高騰で採算がとりにくい。売値に転嫁しきれていない。 |
| 小型情報機器組立 | |
| 印刷 | |
| 金属塗装 | |

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	7.7	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1	25.0	0.0	33.4	58.3	9.1
販売客数	7.7	9.1	▲ 16.7	10.0	▲ 10.0	7.7	18.2	7.7	16.7	▲ 27.3	16.7	25.0	9.1
販売客単価	23.1	36.4	8.3	40.0	20.0	30.8	36.4	38.5	41.7	9.1	41.7	50.0	36.4
営業利益	7.7	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4	▲ 8.3	▲ 9.1	25.0	25.0	▲ 18.2
見通し	7.7	▲ 9.1	▲ 25.0	0.0	10.0	0.0	▲ 9.1	0.0	8.4	▲ 18.2	▲ 16.7	0.0	▲ 18.2

<経営者の目・見方・etc>

- | | |
|----|--|
| 青果 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年は凍霜害の影響もあって、りんごが全般的に入荷量が少ない年であったが本年度は量的にも例年並の出荷量となる。色づきも良く品質は良い方向である。11月には贈答需要も含め、日々の販売もふじりんごが中心となってくる。昨年の分もしっかりと販売につなげていきたい。 |
|----|--|

魚介類	・観光需要が復活しつつあるが、会社関係の飲食の機会が制限されつつある。
土産品	・全国旅行支援もスタートしたことにより、観光客が予想以上に増え、売上も昨年比140%以上になるなど非常に好調である。このまま推移してくれることを願うばかりである。
金属製品	・円安が進み各大手調達は国内回路の話が出ているが、足元は自動車を含め回復の兆しは不透明である。高炉メーカーは変わらず、強気姿勢ではあるが、電炉メーカー及び流通においては横ばいまたは一部弱気の状態である。年末までは不透明感が歪めず、年明けからの回復に期待している状態である。
自転車	・円安により値上げの動きが続いており、買い控えが予想され先行き不透明感がある。一部に値上がり前の商品確保の動きが見受けられる。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	20.9	13.0	9.1	4.4	▲28.0	4.2	4.5	26.1	▲3.9	0.0	▲9.5	4.2	4.8
販売客数	8.3	13.1	0.0	▲4.4	▲32.0	▲4.2	4.6	17.4	▲15.4	▲33.3	▲9.6	4.1	0.0
販売客単価	4.2	▲13.1	27.3	0.0	4.0	16.7	0.0	8.7	▲11.5	▲11.1	4.8	0.0	▲4.8
営業利益	4.2	4.3	0.0	0.0	▲16.0	4.1	0.0	8.7	▲23.1	▲27.8	▲42.9	▲4.2	▲28.6
見通し	12.5	▲8.7	▲27.3	4.3	▲12.0	0.0	4.6	8.7	▲11.5	▲27.7	▲9.5	▲4.2	▲4.7

<経営者の目・見方・e t c >

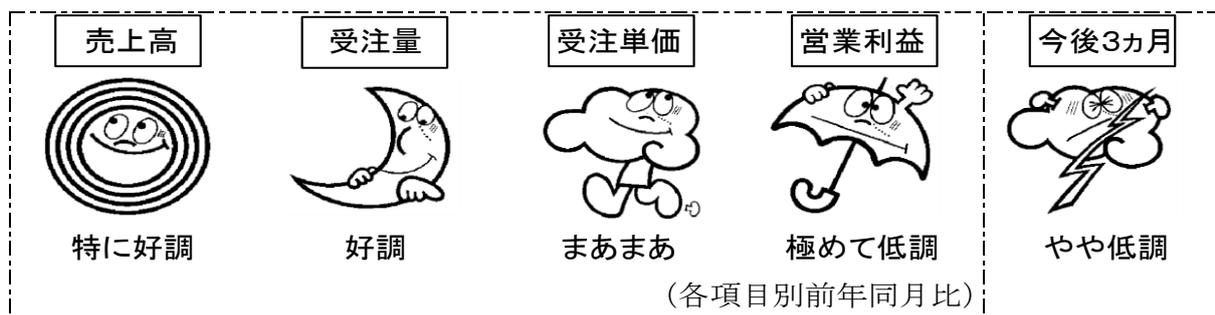
洋菓子店	・昨年と比べるとテイクアウト需要が落ち着いている分、売上が下がっている。円安で材料高騰が続いているのが気になる。 ・10月は横ばいであったが、11月は上昇しそうな見込みがある。しかし、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては上下変動しそうである。10月にはイベントもあったが売上は横ばいであった。
生鮮食品	・仕入先ですべてのものが値上がりしている。休日は観光客で市内が混雑しているが、学校の学級閉鎖が相次いでいると耳にした。
化粧品	・若い人の来街、観光客の来街で町はにぎわってきている。しかし中高年の買物客が少ないのが現状である。小売業への支援策、例えば以前やっていたプレミアム商品券やPayPayのキャッシュバックキャンペーンなどをもう一度開催してくれると非常にありがたい。
薬局	・新型コロナウイルス感染症の流行前とは生活習慣や行動が変わってしまったと感じる。こなくなってしまったお客様も多く、コロナ禍以前に戻ることはないように感じる。

印章

印章・刃物研ぎ

- ・日本人観光客だけではなく、外国人観光客も増えてきており街中や商店街にも活気が戻りつつある。しかし、新型コロナウイルス感染者数も増えてきており、今後どのような影響が出てくるのか多少の不安がある。
- ・演劇を観る方、結婚式に参列する方、修学旅行などで街を歩く方などで、人通りが増えてきたと実感している。地方銀行の合併は地域にどのような効果をもたらすのか。後ろ向きにならないことを祈る。
- ・イベントが例年のように開催されると商店街に活気が生まれ元気が出る。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 17.6	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2	11.8	5.9	33.4	20.0	30.8
販売客数	▲ 23.5	10.5	16.6	▲ 62.5	▲ 86.7	▲ 35.3	7.2	0.0	11.8	11.8	20.0	13.3	23.1
販売客単価	▲ 29.4	▲ 10.5	5.5	▲ 37.5	▲ 53.3	▲ 35.3	▲ 7.2	0.0	▲ 5.9	▲ 11.7	6.7	▲ 6.7	7.7
営業利益	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 13.3	▲ 33.3	▲ 30.8
見通し	5.9	▲ 5.2	▲ 33.3	▲ 43.8	13.3	11.8	7.2	7.1	11.8	▲ 11.8	▲ 20.0	6.7	▲ 7.7

<経営者の目・見方・e t c >

料理

そば

寿司

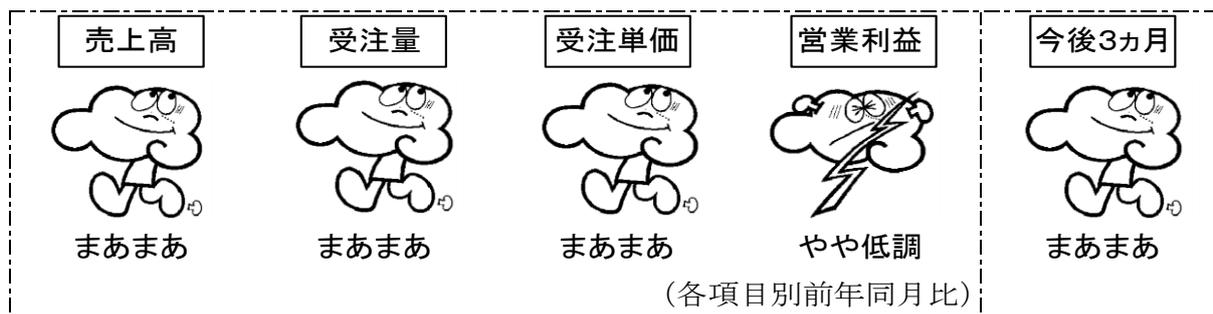
食堂

- ・毎日生懸命働く気力は持っているのだが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け経営が悪くなってきた。
- ・観光客の動きは活発になってきたが、物価高、人手不足、夜の宴会予約がなくプラスマイナスゼロという様相である。
- ・全国旅行支援の効果もあり、今まで少なかったお客様が一気に動き出したことを感じた10月であった。ただ、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、下旬からは若干鈍化するなど、コロナ前の水準には戻っていないのが現状である。
- ・火、水曜日より金、土曜日の方が予約のお客様が多く来店された。県外や松本以外の長野県内のお客様の予約が多少多くなったこともあり、かろうじて横ばいの状態が続いている。
- ・新型コロナウイルス感染者が急激に増えてきている。これから先忙しくなる年末に向けて非常に心配である。その割に感染状況に無頓着なお客様が多いことに驚いている。店ではなお一層の対策に尽力する。
- ・10月に入り新型コロナウイルス感染者数が減少してきたのか、人出が多くなりランチのお客様も増えて忙しいと感じた。しかし相変わらず夜は家飲みが増えているのか静かである。

郷土料理

- ・食材の単価が上昇している。ランチタイムの来店客数は平常に戻っている。
- ・全国旅行支援が始まり、旅行客が増えた。配布されるクーポンを利用される方も増えた。新型コロナウイルス感染者数が増加しているが、世間ではあまり気にせず出かけているように感じる。会合の予約などの問い合わせも増えた。人数の多いものも増えてきており回復傾向にあるように感じる。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R3年10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 20.5	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0	▲ 12.0	9.8	5.0	19.0	17.0	4.8	7.5	0.0	0.0
販売客数	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 10.0	4.7	▲ 23.8	▲ 4.8	▲ 2.5	11.9	7.4	2.4	7.5	▲ 2.6	7.5
販売客単価	▲ 22.8	▲ 4.8	▲ 12.5	▲ 2.3	▲ 14.3	0.0	0.0	0.0	7.3	▲ 2.4	2.5	5.1	7.5
営業利益	▲ 20.4	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7	▲ 31.0	2.4	▲ 12.5	7.1	2.4	▲ 2.4	0.0	▲ 7.7	▲ 5.0
見通し	▲ 13.7	▲ 7.2	▲ 17.5	▲ 20.9	2.3	2.5	15.0	9.6	4.9	7.1	15.0	5.1	2.5

<経営者の目・見方・etc>

旅館

- ・観光客は増えてきているが、新型コロナウイルス感染症の第8波が心配である。

温泉旅館

- ・天候による様々な変更が多い。
- ・全国旅行支援により宿泊客が増大しているが、割引分が早く振り込まれないと支払い等が非常に大変である。
- ・長い期間、行政による観光業者への支援により12月20日までは何とか目途がたつが、この支援も早ければ12月20日で終了する可能性もある中、我々もお客様も支援に慣れてしまったので、支援終了後は客足が急激に落ちて厳しい戦いになると思われる。知恵を振り絞って乗り越えてゆきたい。

ホテル

- ・人流は増えたが、人手不足のため営業を縮小せざるを得ない。
- ・全国旅行支援のおかげで宿泊は好調であった。しかし、事務手続きに時間がかかりお客様、ホテル共にチェックインに苦労した。宴会は少しずつ戻ってきたが、第8波が心配である。

宿泊

- ・全国旅行支援の影響もあり、コロナ禍以前に匹敵する売上まで戻すことができた。仕入価格の高騰や慢性的な人手不足が課題である。
- ・全国旅行支援の影響で活気の増大を感じる。しかし、光熱費ほか、全てが値上がりしており支援の終了後に不安を感じる。

ホームクリーニング・リネンサプライ業

・観光客の増加でリネンサプライは順調に推移した。11月以降新型コロナウイルス感染者数増加に歯止めがかからず心配である。

・仕事量が多いが購入部品の入手が厳しい。半年から1年以上かかるものもある。

リラクゼーション
獣医

・客数がかかり減った。

・業績全般は前年月より良好だが、物価の値上がりが心配である。スタッフ教育に力を入れてエビデンスに基づいた治療をより心がけていきたい。

機械設計
タクシー

・まだまだ物の入りが悪い状況が続いている。来年も続きそうである。

・以前から利用されている全国旅行支援の観光クーポン券に加えて、長野県独自の交通クーポン券の取扱店に登録したので、この券を利用してお客様が増えている。

ソフトウェア

・顧客の業界によって、新規にIT投資を行うところ、諦めるところ、それぞれである。共通してみられるのが現在レガシーとされるC、VBと言った言語で構成されたシステムの再構築である。当時を知るエンジニアが大量に定年を迎えることに対する危機感の有無に企業の伸びしろを感じる。

